

日蓮大聖人御書全集

こあぶつぼうさんだんごしよ

故阿仏房讃歎御書

新版
1747

こあぶつぼうさんだんごしよ

故阿仏房讃歎御書

こうあん ねん

弘安2年('79)

がつ

3月以降

さいいこう

58歳以降

あぶつぼう

えんじや

阿仏房の縁者

ほうべん

ねはん げん

じつ

めつど

説

「方便もて涅槃を現ず。しかも実には滅度せず」ととか

はちがつじゅうごや

まんげつ

くも

隠

れて、八月十五夜の満月の雲にかくれておわするがごとく、

めつ

たま

そうろう

ひと

くも

隔

見

いまだ滅し給わず候なれば、人こそ雲にへだてられてみ

そうろう

つき

ぶつげん

ぶつじ

聞

ご

まいらせず候とも、月は仏眼・仏耳をもつてきこしめし御

覧

らんあるらん。

うえ

こあぶつぼう

いっしん

ほとけ

み

ほつ

その上、故阿仏房は「二心に仏を見たてまつらんと欲す」

もの

りんじゅう

とき

しゃかぶつ

み

そうら

の者なり。あに、臨終の時、釈迦仏を見まいらせ候わざ

らん。
その
上。うえ